

付 録

1. 学長諮問
2. 第9期自己評価実施計画
3. アンケート依頼文
4. アンケート回答用紙
5. 自己評価運営委員会規程・自己評価に関する覚書
6. 第9期自己評価運営委員会の委員構成
7. 第9期自己評価運営委員会活動日誌

1. 学長諮問

2009年12月7日

自己評価運営委員会委員各位

学長 水野明哲

自己評価運営委員会の検討課題について

自己評価運営委員会の検討課題については、従来学長が諮問するという形を取っていたようです。このような形で特定の問題を掘り下げて評価いただくことも意味のあることではありますが、一方で、まったく評価されずに過ぎてしまう課題もたくさんあるものと思われま

す。大学を含む全学園においては、毎年事業計画を策定し、大学各部門もこの事業計画に基づいて必要な事業を推進していただいております。年度途中のチェックを経て年度末の事業報告につなげています。しかし、この事業報告は、当事者からの報告であって、できれば第三者によるチェックが望ましいものと考えます。

以上のようなことから、大学自己評価運営委員会においては、事業計画の遂行状況のチェックをしていただき、評価を行うという方向に、委員会の活動方針を変更いただくことの可否をご検討いただき、それに基づく活動を実施していただきたくお願い申し上げます。

以上

2. 第9期自己評価実施計画

2010年5月17日

教授総会構成員 各位

自己評価運営委員会
委員長 蔵原清人

第9期 自己評価実施計画（案）

今期の自己評価運営委員会の発足は昨年12月に入ってなされたが、これまで5回の委員会を開催し、今期の自己評価実施計画を下記のように取りまとめましたので、よろしくご検討をお願いいたします。

1. これまでの活動について

昨年12月に行われた第1回委員会では、委員長、副委員長の選出の後、学長から「自己評価運営委員会の検討課題について」の説明を受け、意見交換をした。学長から、法人が取りまとめる事業計画についてのチェックを行うこと、認証評価が第2サイクルに入り進め方の変更があつて、学内での自己点検システムが機能しているかどうかに関し評価の重点が移されること、本学ではつぎの認証評価を2013年度中に受審しなければならないこと、これと関わって大学院の自己評価運営委員会と大学の自己評価運営委員会の連携等も課題となっているとの説明があつた。これを受けて委員の意見交換をした。その後、認証評価の動きや学内での自己点検体制などを概観して今期の課題について意見交換をした。

2. 第9期の課題について

本委員会としては、今期の課題を次のようにしたい。

全学的な自己点検評価推進体制の現状と課題

認証評価が第2サイクル目に入る新たな展開に対応して、今後は各大学の中での自己点検評価体制の確立が求められる。本学では自己評価運営委員会の発足にあたって学内の「各機関が本来の職務上行う評価」を積極的に認め、「自己評価機関の設置又は自己評価の実施は既存の機関の権限を制限するものではない」ことを明確にしている（「自己評価に関する覚え書き」平成5年6月14日教授総会）。今後の自己点検評価は「各機関が本来の職務上行う評価」を踏まえて進めることが重要になる。したがって次の認証評価の準備のためにもこうした学内の評価体制の現状を把握し、今後の課題を示すことが必要になる。

具体的には次のような活動について、今後の認証評価受審及び学内でのPDCA（Plan-Do-Check-Action）サイクル確立に向けての課題を検討する。

- 1 学部及び大学院の自己評価運営委員会の活動
- 2 工学院大学の教育研究白書の編集および認証評価等の受審
- 3 JABEE の受審およびそのための活動
- 4 ISO14001 の受審及びそのための活動
- 5 法人としての毎年の事業計画、事業報告を取りまとめる活動、あわせて法人としての内部監査活動
- 6 その他学内諸機関における自己点検評価活動

PDCA サイクルの確立に向けて特に求められていることは、学内のそれぞれの部署で評価結果を次のアクションに生かしていく体制がつくられていることである。したがって、これまで8期にわたって行われてきた自己評価運営委員会の活動がその後のアクションにどう生かされてきたか、それを見える形に示すにはどうしたらいいかについて特に注目したい。

以上の課題を検討するためには現状把握が必要であり、そのための調査、具体的には資料収集、アンケートやヒアリングなどを実施したい。皆様方のご協力をお願いしたい。なお、必要に応じて大学院自己評価運営委員会との協力ないし協同を進めたい。

3. 自己評価の体制

系列選出委員(任期：2009年4月～2011年3月)

工学部	蔵原 清人	工学部共通課程教授	委員長
	八戸 英夫	工学部機械システム工学科准教授	
	石川 徹	工学部環境エネルギー化学科准教授	
	伊藤 稔	工学部電気システム工学科教授	
	中島 智章	工学部建築学科准教授	
情報学部	篠原 克幸	情報学部コンピュータ科学科教授	
グローバルエンジニアリング学部	金丸 隆志	グローバルエンジニアリング学部機械創造工学科講師 (2010年4月より准教授)	
学長指名委員	遠藤 和義	工学部建築学科教授	
	南雲 紳史	工学部応用化学科准教授 (2010年4月より教授)	副委員長
職務上委員			
教務部長	管村 昇	情報学部情報デザイン学科教授	
学生部長	佐藤 光史	工学部共通課程教授	

4. スケジュール

以上の課題について、8月ごろまでに実態調査を行い、9月以降報告書のとりまとめに向けた検討を行う。この間、必要により学内の意見を聴取する。報告書は、2011年3月までにまとめる予定である。

以上

3. アンケート依頼文

2010/08/01

各科主任教授 各位
各種委員会 委員長 各位

殿

第9期 自己評価運営委員会
委員長 蔵原 清人

自己評価運営委員会アンケートについて〈お願い〉

第9期自己評価の課題として「全学的な自己点検評価推進体制の現状と課題」について行うことが教授総会で承認されました。

大学の認証評価は7年ごとにすべての大学が受けなければなりません。制度が発足して7年間の過ぎようとしています。第2サイクル目に入る新たな展開として、今後は各大学の中での自己点検評価体制の確立が求められています。このため今後の自己点検評価は「各機関が本来の職務上行う評価」を踏まえて進めることが重要になります。次の認証評価の受審準備のためには、学内のPDCAサイクルがどのように実施されているか自己点検評価体制の現状を把握し、今後の課題を示すことが必要です。

ついては、そのための準備として現状を把握するためのアンケートを行いますので、ご協力ください。できるだけ部署・機関の代表者がお答えください。個人の意見が含まれていて結構です。このアンケートは個々の部署の取り組みの善し悪しを評価するものではなく、本学での体制がどうなっているかを明らかにすることを目的としていますので、別紙のPDCAについての解説をご覧の上ご回答をお願いいたします。

記

- 【アンケートの実施対象】 各学科（主任教授に依頼）
各種委員会（各委員長・基幹部署に依頼）
- 【提出期限】 2010年8月30日（月）
- 【提出先】 教務部 学務課（メールでの提出も可）

以上

4. アンケート回答用紙

自己評価運営委員会アンケート

回答部署・委員会 _____ 記入者 _____

複数の委員会がある場合は委員会別にお答えください。

1. これまで貴部署・機関では、活動や業務について総括し評価することをおこなっていますか。（会議での議論やその記録である議事録の作成を含む。）

- ① 毎年行っている
- ② 数年に一度程度行っている
- ③ 新規の事業（活動）を行うときに行っている
- ④ これまで特に行っていない
- ⑤ その他

<ご意見>

※ ①から③までお答えの部署・機関は、それをまとめた文書（最近のもの一つ）を添付してください。ただし、本学の教育研究白書に掲載したものは必要ありません。

2. 貴部署・機関の活動を進めるときPDCAサイクルということを意識していますか。またPDCAサイクルということを考えるとき、どの段階が取り組めていないと思いますか。

- ① 特に意識していない
- ② P（プラン）の段階が十分でない
- ③ P（プラン）はしっかりたてているが、D（ドゥー）が曖昧になりやすい
- ④ D（ドゥー）まではよいが、C（チェック）で成果の確認などが弱い
- ⑤ C（チェック）までは行っているが、次のA（アクション）がはっきり行われない
- ⑥ PDCAを意識して行っている
- ⑦ その他

<ご意見>

3. 貴部署・機関で、P D C Aサイクルにしたがった活動を進めるために、何が必要だと思いますか。

- ① あとでC（チェック）がしやすいように、P（プラン）をたてる時D（ドゥー）の計画を項目別にする
- ② D（ドゥー）を振り返り、次のA（アクション）がしやすいようにC（チェック）をしっかりと行ってまとめる
- ③ C（チェック）にもとづいて次のA（アクション）をしっかりと行う
- ④ P D C Aサイクルの意義や手順について、メンバー（構成員）がしっかりと理解する
- ⑤ 各部署・機関がその活動について毎年、報告書をまとめるようにする
- ⑥ その他

<ご意見>

4. 今後の認証評価は、その大学においてP D C Aサイクルが機能しているかを中心に行うことになっています。これに関連して貴部署・機関のご意見ご希望をお聞かせください。

- ① 新しい認証評価システムについての情報がない
- ② P D C Aサイクルを回すために、学内の合意や支援体制を確立する必要がある
- ③ P D C Aサイクルを回す点検のためのチェックリストがあるといい
- ④ 各部署・機関の必要に応じて総括を行うべきであり、P D C Aを一律に求めるべきではない
- ⑤ その他

<ご意見>

5. その他、今期の自己評価の課題について、あるいは今後の認証評価のあり方などについて、ご意見がありましたらお聞かせください。

【提出先：教務部 学務課 提出期限：2010年8月31日（月）】

5. 自己評価運営委員会規程・自己評価に関する覚書

自己評価運営委員会規程

平成5年6月14日

(目的及び設置)

第1条 本学の教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検・評価を行う組織として、教授総会の下に自己評価運営委員会(以下、「運営委員会」という。)を置く。

(活動)

第2条 運営委員会は教授総会の諮問に応じ、次の各号に定める大学の教育研究活動等の状況について、調査に基づき点検・評価を行い、教授総会に報告する。

- (1) 教育理念及び目標
- (2) 教育組織及び教育課程
- (3) 研究組織及び研究体制
- (4) 構成員の一般的環境及び社会との関係
- (5) 管理運営体制及び財政

2 学長は、別に必要な事項について運営委員会に諮問することができる。

3 運営委員会は、前2項に定めるほか、独自に点検・評価項目を設定し、調査等を行うことができる。

(委員)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 共通課程から選任される教員 1名
- (2) 機械工学科及び機械システム工学科から選任される教員 1名
- (3) 応用化学科、環境化学工学科及びマテリアル科学科から選任される教員 1名
- (4) 電気システム工学科及び情報通信工学科から選任される教員 1名
- (5) 建築学科及び建築都市デザイン学科から選任される教員 1名
- (6) 情報学部から選任される教員 1名
- (7) グローバルエンジニアリング学部から選任される教員 1名
- (8) 学長が指名する教員 若干名
- (9) 教務部長及び学生部長 各1名

2 前項第1号から第8号までの委員の選任又は指名は、教授総会において承認を求めるものとする。

(任期)

第4条 前条第1項第9号以外の委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項第1項第9号の委員は、その役職に在任中委員となる。

3 委員が任期途中で交代した場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 運営委員会に委員長及び副委員長1名を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。

3 委員長は、運営委員会の議長となり、その会務を総理する。

4 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

(定足数)

第6条 運営委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を行うことができない。

2 運営委員会の議事は出席委員の過半数により決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

(専門委員)

第7条 専門の事項を調査するため必要があるときは、運営委員会に専門委員を置くことができる。

2 専門委員は運営委員会の議決に加わらない。

(委員会)

第8条 運営委員会に、特定分野又は個別事項に係る調査及び点検・評価を行うため、若干数の個別自己評価委員会(以下、「委員会」という。)を置くことができる。

2 各委員会は、それぞれ運営委員会の委員及び専門委員で組織する。

3 運営委員会は、委員会の構成についてあらかじめ教授総会の承認を求めなければならない。

4 各委員会の議事等については、本規程の第4条から第7条までを準用する。

5 運営委員会又は委員会は、学内に設置された各種委員会組織又は事務組織に調査を委嘱することができる。

(庶務)

第9条 運営委員会及び委員会の庶務は、教務部学務課が処理する。

(改廃)

第10条 この規程の改廃は教授総会がその議により行う。

付 則

この規程は、平成5年6月14日から施行する。

付 則

この規程は、平成11年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

自己評価に関する覚え書き

平成5年6月14日

1.自己評価の考え方

- (1).自己評価は、大学設置基準に明文化されたから義務的、受動的に行うものではなく、大学への社会的な期待に対し大学の責任として当然行うべきものである。本学は既に教学分科会報告(1984.11.20)等で実質的な自己評価の経験があり、今回の自己評価規程等はこれを明確にするものである。
- (2).自己評価は、大学にとって自発的、自律的、自覚的な運営と質的向上を図ることを目的とするもので、組織の向上及び活性化を通じて各個人の向上をも目指すものであり、決して個人を単位として評価することが目的ではない。言うまでもなく大学人としての自己規律と職業倫理とはおのずから求められるものである。
- (3).自己評価は、各機関が本来の職務上行う評価とは別のものであり、自己評価機関の設置又は自己評価の実施は既存の機関の権限を制限するものではない。また、自己評価の結果に対する反論・批判等は自由に認められる。
- (4).自己評価は、内外の検討や批判に耐え得る客観性をもち、かつ公平なものでなければならない。評価を巡って意見の対立や違いが明らかになったとしても、学園の将来への発展を願う真摯な討論が行われるならば、価値ある努力であり、また多様な意見の吟味により、より客観的な認識に近づける。
- (5).教育研究の内容に関する自己評価は、学問の分野ごとの特殊性を考慮し、教員の学問・思想・信条・研究スタイルを尊重して慎重に進めるものとする。
- (6).自己評価の結論・提言は直ちに実施することを義務づけるものではないが、当該機関等は(改善)実施の是非・時期等の方針を速やかに見解として示すことが求められる。

2.自己評価の手順

- (1).自己評価運営委員会は、自己評価を実施するに当たり、教授総会に対して自己評価実施計画を提出し、承認を受ける。自己評価実施計画には次の内容が含まれる。
 - ①自己評価の課題内容と個別委員会の構成員案
 - ②自己評価の進め方の概要
 - ③評価実施期間
- (2).自己評価運営委員会及び個別委員会は、必要に応じ学内各機関に対して必要な資料の提示を求めることができる。ただし、取り扱いについて最終決裁は学長が行う。
- (3).運営委員会は、毎年1回以上教授総会に対して報告を行う。
- (4).評価実施期間が1年を越える場合は、少なくとも毎年1回中間報告を行う。
- (5).個別委員会が作成する評価報告書は、運営委員会が(必要ならば運営委員会の参考意見を付記して)教授総会に提出する。
- (6).自己評価の結論・提言の実施は、責任を持つ当該機関が所定の手続きを経て行う。
- (7).報告書の外部への発表は(必要ならば)学長が行う。

6. 第9期自己評価運営委員会の委員構成

第9期の自己評価運営委員会の体制は下記のとおりである。

系列選出委員（任期：2009年4月～2011年3月）

共通課程	蔵原 清人	教授（委員長）
機械系学科	八戸 英夫	准教授
化学系学科	石川 徹	准教授
電気系学科	伊藤 稔	教授
建築系学科	中島 智章	准教授
情報学部	篠原 克幸	教授
GE 学部	金丸 隆志	准教授
学長指名委員	遠藤 和義	教授
	南雲 紳史	教授（副委員長）
職務上委員	管村 昇	教授（教務部長）
	佐藤 光史	教授（学生部長）
事務局	小島 孝治	大学事務局長
	松本 利一	教務部事務部長
	小玉 陽子	教務部学務課長
	岡本 信彦	教務部学務課職員

7. 第9期自己評価運営委員会活動日誌

第1回 2009年12月7日(月) 13:10~14:25

【 委員長及び副委員長選出、第9期の課題について、今後のスケジュールについて 】

第2回 2010年1月21日(木) 13:00~14:30

【 本委員会の活動状況等について 】

第3回 2010年2月12日(木) 13:00~15:10

【 学内で行われている評価システムについての検証 】

第4回 2010年3月16日(木) 16:00~18:00

【 学内で行われている評価システムについての検証、内部監査の現状 】

第5回 2010年4月22日(木) 18:00~19:35

【 自己評価実施計画について 】

第6回 2010年6月3日(木) 18:00~20:10

【 アンケートについて 】

第7回 2010年7月1日(木) 18:00~19:40

【 アンケートの実施について 】

第8回 2010年9月13日(月) 17:35~19:00

【 アンケート集計結果の分析について 】

第9回 2010年10月15日(月) 17:40~19:00

【 アンケート集計結果の分析について、全学的な自己点検評価推進体制について 】

第10回 2010年11月8日(月) 18:05~19:20

【 アンケート集計結果の分析について、活動報告書の構成および役割分担 】

第11回 2010年12月2日(月) 17:00~18:45

【 諸活動の関係図の作成について 】

第12回 2011年1月26日(水) 13:00~15:35

【 報告書のまとめ 】

第13回 2011年2月28日(月) 10:00~12:00

【 報告書のまとめ 】

